

2023 年度 個人研究実績・成果報告書

2024 年 4 月 19 日

所属	人間社会学部	職名	教授	氏 名	櫻井和典
研究課題	つながり力と遊び心の追求				
研究キーワード	つながり力、協働、遊び心、水平思考		当年度計画に対する達成度	3.概ね順調に研究が進展し、一定の成果を達成したが、一部に遅れ等が発生した	
関連するSDGs項目	8. 働きがいも経済成長も	12. つくる責任 つかう責任	17. パートナリーシップで目標を達成しよう	該当なし	

1. 研究成果の概要

つながり力、コラボレーション力、遊び心について、いくつかの企業を取り上げて研究対象としてきたが、今年はこれまでと違い、企業でなく商店街に焦点をあてて研究した。商店街の個店は、基本的には法人ではなく個人事業が大半である。近年では大型スーパー、ショッピングモールの台頭で、都市部の商店街もその大半は衰退の一途をたどっている。

昨年秋には、これまでつながりをもっていた墨田区の「キラキラ橋商店街」を介して墨田区商店街連合会から、「商店街の明るい未来を形作るための提案を行なう『ドリームプランコンテスト』にゼミとして参加しないかという誘いを受け、当時 3 年生のゼミ生を中心に「働く」という視点からこのコンテストに参加した。課題は「個店が東あづま本通り会に入りたくなるには」というものである。私たちは、現地でのヒアリング調査をもとに、個店として働くだけではなく、商店街としての一体感や商店街の地域性を活かしたイベントを計画しつながりを意識してもらうこと、また、住民とのつながりに工夫をもたせ、積極的に巻き込んでいくことを柱として具体的な提案をした。

結果として、優秀賞をいただいたものの、最優秀賞には届かず。ただし、最優秀賞の千葉大学とは、課題へのアプローチの仕方が結構近く、学生たちは自分たちの視点に自信を持ったようだ。このコンテストには、引き続き参加していきたい。

学生たちのキャリアにおけるファーストチョイスは、ほとんどが企業、自治体などへの就職であるが、10 年、20 年と働いていくうちに起業を考えたり、自分の店を運営したいと考えたりする学生もいるはずである。そのようなときに、今回の様な経験は生きてくるとし、また、中小企業診断士への関心をもつ学生も出てくるのではないかと考えている。

2. 著書・論文・学会発表等

(できるだけご記入ください。査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載)

【論文 (査読あり)】

とくになし

【著書・論文 (査読なし)】

とくになし

【学会発表等】

とくになし

3. 主な経費

とくになし

4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

とくになし

（本文は2ページ以内にまとめること）